



# 指扇中だより



= 自信と誇りに満ちた指中生 =

〒331-0078 さいたま市西区西大宮 3-31-1 電話 048(624)6234 FAX048(624)2479

## 『面倒だから、しよう』

校長 あおき ひろし  
青木 洋

さあ、今日から1年の中で一番長い第2学期がスタートです。令和元年度の夏季休業日は、梅雨明けが7月末になり、いつもより遅い夏の到来となりました。しかし、梅雨が明けた8月になると連日35℃を超える猛暑日が続き、熱帯夜と重なり、寝不足や食欲不振による体調不良や熱中症を心配する毎日でした。



しかし、指中生は、3年生を中心に埼玉県学校総合体育大会等で大活躍してくれました。野球部は「35年ぶり県大会出場」、バドミントン部は「宿敵日進中を市の学総で破り、県大会ベスト16」、ソフトボール部は「県大会ベスト8」、個人種目「水泳」では、2年の清水優太(しみずゆうた)君は200m自由形で『関東大会出場』、個人戦の「柔道」では、3年の三浦心暖(みうらこはる)さんは全国中学校体育大会第3位となりました。私は、8月19日に兵庫県姫路市「ウインク武道館」へ応援に出かけました。大変良い思い出となりました。



この夏休み各部の応援に行き、私は、指中生はあきらめずに最後までがんばれる生徒が多く、素直な心でいろいろなことを吸収し学ぼうとする態度をもっている生徒も多いように思いました。そのような指中生に本日の始業式で、ノートルダム清心学園理事長・渡辺和子(わたなべかずこ)さんの『面倒だから、しよう』という話をしました。

ノートルダム清心の渡辺理事長は、学生たちに「この世の中には、お金で買えないものがあり、その一つが心の美しさなのだ」「しようか、どうしようかと迷ってもいい。でも、そこで、自分の怠け心と闘った時に、初めて、本当の美しさ、自分らしさが生まれてくるのだと思う」と言っています。マザー・テレサが来日された時、「私が一番びっくりしたのは、日本のきれいだ。街路、服装、自動車、何もかもきれい。しかし、もし、あのきれいな建物、家屋の中で親子の間の笑顔、夫婦間の思いやりがないとしたら、インドの貧しいながら、ぬくもりのある家族の方が幸せだ、と思う」と言われました。「きれい」は、お金を必要とします。「美しさ」に必要なのは、心の輝きなのです。

今のように、手間ひまをかけないですむものが溢れている時こそ、自分の心の中の小さな闘いが必要であり、その結果としての美しさが世の中を明るくするのではないのでしょうか。

始業式の式辞で話した「長距離トラックの運転手」の話と「机の消しゴムのカス」話を心に受け止めてほしいと思います。そして、『面倒だから、しよう』の精神で、生活していきましょう。そして、もっともっと良い指扇中学校にこの2学期もしていきましょう。

**指扇地区目指す児童生徒像 「～夢をもち 社会のために進んで学ぶ 指扇の子ども～」**